

みなさんは、いかにも怖そうな悪役俳優を見てどう思いますか？ある悪役の俳優さんは、頭にこなくても良いことで怒ったり、真剣に悪い方へと心を持っていく努力をして、だんだん悪い顔になってくるそうです。逆に、元暴走族や暴力団員だったクリスチャンを見てどう思いましたか？とてもそうは見えませんでした。顔が変わってきているのです。それは心、すなわち内側が変えられているからです。また、自他共に認める行動をする人は、有言実行の人です。内側が良いと外側に流れるのです。つくり笑顔の人は一目で分かります。行動もそれと同じで、たとえ良い行いをしてもそれが心からの行動で無いならば、外側には歪んだものが流れます。聖書で言う「ふたごころ」の行動です。これはとても危険です。実際、自分が普段行っている行動に「ふたごころ」をもっていないか？きっと、もっていないと答える人はいないでしょう。では、その「ふたごころ」の善し悪しを理解しているのでしょうか？私たちはすでに心の中で、行動の善し悪しが認識できるのです。自分がしている行動の悪に対して鈍化して最後には解らなくなってしまふ。これが大きな罪の始まりなのです。ですから、私たちは神さまの前にまず、自分が行っていることに対して正しく行動の善し悪しを判断しなくてははいけません。(ローマ7：15～8：14) 自らの外側と内側が一致することを目指すのはクリスチャンの目標です。「ふたごころ」の始まりは、自分がやると言ったことをしなかった事に始まり、そこに言い訳が付いてくる。そうすると、本音と実際が違ってきてしまうのです。だから、まずはどんな小さな事でも言ったことは実行していきましょう。そうすれば有言実行になります。「あの人のようになりたい」「あの人にお返しをしたい」と、良い循環が生まれます。外側と内側が整えられた人に与えられる報酬みたいなものです。神さまは、人のためにきまりを作りました。あなた自身があなたを保ち、あなたが祝福されるためのきまりであって、取り締まるためのものではありません。ところが、このパリサイ人は自分がきまりを守れないことをよく知っていて、それゆえにあらゆる制限を自ら課しました。そして、自分たちが課した自己中心な制限を守っていない人を裁いて自らの正当性を保ったのです。私たちは、「ふたごころ」を隠すために人を裁くようになってしまふ。それでは、パリサイ人と同じ行動です。人を裁くと自分の罪を見なくなる・・・これでは悪魔の思うつぼです。私たちは、神の目線に近づかなくてははいけません。私たちの目線が裁きの目線になっていると、自分を守る体制になっている可能性があります。神さまに似せられてつくられた私たちが自己中心で自分を守るために「ふたごころ」をもち、人を裁いていては恵みに預かることは出来ません。(マタイ23：21～28、詩64：5～7) 赦された罪人として生きる、神の御前にあなたの子どもとして生きると誓い、私たちが赦されるためには、赦す人生をおくこと、祈ることしかありません。私たちの内側が新しくなるために、大切なことを見失わないために、①形に捕らわれていませんか？口で「私は教会に行くにふさわしくない」と言っているも自分は罪人であるということ認めようとしていない、聖書で言う「偽善者」とは、こういうものです。自らが罪人であると認めるとおのずと祈らなくてはいけないことが解るのです。人の目なんかどうでもいいのです。あなたの外側も内側も知っておられる神さまがどう思うかなのです。神さまと会話をして自分の行っている行動に自信を持ってください。②心が何を考えていますか？人間は、霊と魂と肉でできていて、さらに魂には知(知性)・情(感情)・意(意志)があります。この3つの中から感情をコントロールすべきです。「志」とは意志で、「自分をこうしていきたい」という約束です。しかし、あなたの感情はどうですか？志では「正しく行こう」と決めていても、感情では「嫌だなあ～」と思っていないませんか？これが外側と内側の違いです。魂は1つであるべきです。言っていることと感情が一致していないとただの嘘つきです。あなたの心の中にあるものがあなたを汚すのです。(マルコ7：18～23) あなたは自分が解っていますか？感情を整えましょう。③魂に値打ちがありますか？感情が整うと魂に価値が生まれます。知識や考え、神の知恵に基づいてあなたの志が素晴らしい価値観になり、やる気が起こると、そこで初めて魂に値打ちがつくのです。あなたには値打ちがありますか？心の値打ちは神さまの前に正しいですか？(箴言16：1～9)。私たちの心が値打ちあるものとなるために、3つのポイントを守っていきましょう。そうすれば、魂が守られあなたの価値は素晴らしいものとなります。あなたの意志があなたを動かし、あなたの感情が行動を支え、神の知恵がするべき事を教えてくれるようになりますよ